

2024年5月27日

 二幸産業株式会社

日刊工業新聞社様に弊社のサステナビリティ報告書への
取組記事が掲載されました

各位

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、5月17日（金）発行の日刊工業新聞社の記事の中で、中小企業に
おけるサステナビリティ報告書作成という記事において、弊社における作成へ
の取組に関する内容が掲載されました。

社員が制作 個性豊か

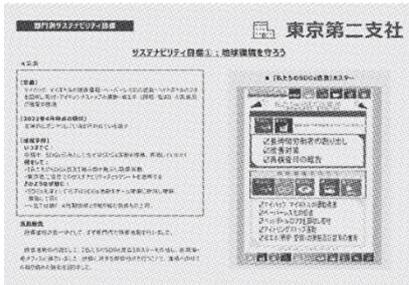
6月の株主総会シーズンに入ると、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを伝える「サステナビリティ報告書」の発行が本格化する。上場企業の多くが株主や金融機関、取引先に報告書を配布しているが、中小企業の制作も少なくない。社員が構成を練り、各部署が手分けして取材や編集する中小企業が多く、上場企業とは違った個性が報告書に現れる。上場してなくても、報告書を社外への情報発信に活用している。

(編集委員・松木喬)

二幸HD

建物清掃などのビルに推進するのは辛い。メンテナンス業、二幸。それなら、活動を見えホルディングス(日)のようにならんと報告D、東京都新宿区は書きた。2023年、初めてサステナビリティ報告書、22年春から構想を練り、部門長にSDGs書を発刊した。きつ活動の目標や思いを執かけは持続可能な開発目標(SDGs)活動だ。社外への発信を想った。渡部執行役員、定すると「部門長の言葉はSDGs達成に貢献なら取引先に伝わり献しようとしても、事やすい」と狙いを説明業との関わりが分かります。完成した報告書は90

中小のサステナ報告書



部門長、思いを執筆 融資の提案 求人にも効果

電子版で発刊すると2は各部門・支社のべ1シだ。清掃サービスでの環境負荷削減から職場でのパーフォーマンスを超えたが、3分の反響があり、金融機関から融資の提案があった。また、求人にもつながった。SDGs推進部の谷島若菜氏は報告書の存在を知って転職してきた。他社からも内定を受けていたが、報告書の記事で「サステナビリティ委員会を毎月開催しており、経営層に理解がある」と感じたことが決め手だった。ほかにも社外の関係者からは「清掃業は労働集約型でありながら、人的資本の記述が足りない」と指摘を受けた。6月末発行予定の24年版は研修の準備を掲載し、社外からの期待に応える。編集担当2年目になるSDGs推進部の岡安純子氏は「ある程度は調整するが、各部門の色は消さない」と方針を語る。